西伊敷小学校

令和５年度第３回学校運営協議会議事録

１　期　日　　令和５年１１月１日（水）　１０：００～１１：３０

２　場　所　　西伊敷小学校　校長室

３　出席者　　加藤　俊文，藤崎　剛，脇元　次男，福徳　清和，栫　和嗣，
米倉　佐和，大石　博子，村山　雅子，有村かおり

４　会順及び協議題
(1)　開会のことば（10:00）
(2)　学校運営協議会長あいさつ（10:00～10:05）
(3)　学校長あいさつ（10:05～10:10）
(4)　「県小中一貫教育及びコミュニティスクールフォーラムin鹿児島市」の報告（10:10～10:25）
(5)　授業・施設参観（10:25～10:55）
(6)　協議及び情報交換（10:55～11:30）
○　令和６年度教育課程編成の基本方針について
○　授業・施設参観を通して　等
(7)　閉会のことば（11:30）

５　協議の内容や意見等
○　「県小中一貫教育及びコミュニティスクールフォーラムin鹿児島市」の報告については，別紙を参照。
○　１年生の教室横に学校図書館があり，低学年から読書に親しませる環境がよいと思う。
○　子どもを学校と保護者と地域が連携し，今後の社会の変化と求められる力といわれる「身の回りに生じる様々な問題に自ら立ち向かい，その解決に向けて，異なる多様な他者と協働して力を合わせながら，それぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく力（異質な集団で交流する力）」を育てていくためには，子どもを叱るのではなく褒め，いかにモチベーションを高めていくかが大切ではないだろうか。
　地域の様々な行事等においても，参加するごとにポイント等を与えることで，モチベーションを高め，様々な経験をさせていきたい。
○　様々な当たり前をゼロベースで改めて見直してみることも大切ではないか。その先には，個性が生まれ，帰属意識や所属意識も高まると思われる。
○　朝の通学ボランティアで立哨をしているが，授業参観中に，知っている子どもたちが多く声をかけてくれたのがうれしかった。やはり，特別の事

情がない限り，歩いて登校することが望ましい。歩いて登校することにより，多くのことを学べると感じる。

○　施設面では子どもたちが学ぶ・過ごす空間として，昔と比べ随分改善され，よいと感じる。特別支援学級についても，ハード面・ソフト面ときちんと整備されており，よいと感じる。

○　大きな事故やいじめ等の重大事態が発生したときの学校の対応を整えておくことが必要である。初動がまず重要で，その後の解決に向けた取組に大きく影響してくる。

○　時代が大きく変わる中で，子どもたちの様子も変わってきている。以前は，夏休みのラジオ体操時，高学年がリーダーとなり行っていたが，今は見られなくなった。平成時代のスマートフォンの登場が転換点のように思う。家庭の中で，親も子もスマートフォンを触り，コミュニケーション等が減り，親が子に対して指導すること等ができなくなっていると思う。昔行っていてやはりよかったと思える取組を，今の子どもたちに対しても，学校・家庭・地域で再考し，将来を見据えて取り組んでいくことが大切ではないだろうか。そして，フォーラムの報告にもあったように，漢方薬の如くじわりじわりと子どもたちの中に効いてくるとよい。

○　授業では，どの学級もめあてがあり，何のために学んでいるのか目的がはっきりしていた。

○　小学校でも，中学校の職場体験学習のように，「社会人に学ぶ」的な授業があってもよいのではないか。その中で，子どもが意見を述べる場があると，子どもにとっても大きな学びになると思う。

○　令和６年度に小学校の教科書が改訂されるので，興味がある。

○　フォーラムの報告に「拡大学校運営協議会」の話があったが，とても意味があり，その実現に向けて早めに担当者が集まり打ち合わせをした方がよい。仕事柄，中・高生とよく接するが，６・７年前と今では随分変わってきているように感じる。（擦れてきているように感じる。）そのことで，親が子に指導しようとすると，喧嘩になる心配もあるので，なかなか言えないところも多い。拡大学校運営協議会において，西伊敷小と緑丘中，その保護者や地域の方々で横のつながりをつくり，どのような児童生徒を育てていきたいのか目指す姿を共有し，そのための手立てを実行していきたい。また，幼・保・小の連携も大切であると思う。

○　大人になっても，異なる多様な他者との協働の場面は多くあり，他者理解や寛容性が大切であると感じる。今は，人と人が直接リアルに接する機会や体験が減ってきており，他者に対する理解が不足しているように感じる。子どもたちには，異なる多様な他者と協働する場面を増やし，他者理解や寛容性を育めるようにしていきたい。

○　掲示物の設営には，担任のコメントや親のコメントが書いてあり，興味深かった。

○　昔と今とでは，子どもは変わったという話があるが，オギャーと声を挙げ生まれてくることは変わらず，そこからの過程が大切である。

○　授業では，子どもたちが落ち着いていた。小学校の授業では，教師主導から子ども主導に変わってきており，保育園でも一斉保育はなくなってきている。また，子ども一人一人の人権を大切にしていると同様に，言葉が分からない赤ちゃんの園児に対しても「オムツを替えますね」と声をかけ行うなどしている。保育園の立場から本運営協議会に参加し，小学校や子どもの様子等が分かり，保育園でもそれを職員に伝えることができ，ありがたい。